

全 員 協 議 会 記 録

令和5年2月20日(月)
10時00分～12時21分
議 場

〔出席議員〕

笹田議長、川神副議長

肥後議員、村木議員、大谷議員、三浦議員、沖田議員、足立議員、村武議員、
川上議員、柳楽議員、串崎議員、小川議員、上野議員、布施議員、岡本議員、
芦谷議員、永見議員、佐々木議員、田畑議員、西田議員、牛尾議員

〔執行部〕

市長、副市長、教育長、地域政策部長、産業経済部長、都市建設部長、教育部長

〔事務局〕 局長、次長、大下書記

議 題

1 執行部報告事項

- | | |
|---------------------------------|---------|
| (1) (仮称) 浜田市まちなか交流プラザの整備(案)について | (地域政策部) |
| (2) 浜田駅待合所における高校生の学習スペースの確保について | (教育委員会) |
| (3) 三桜酒造跡地の活用について | (産業経済部) |
| (4) その他 | |

2 その他

- (1) 自由討議について
- (2) その他

【詳細は会議録のとおり】

【会議録】

〔 10時 00分 開議 〕

笹田議長 | ただいまから令和5年2月20日の全員協議会を始める。本日は永見議員から欠席の連絡を受けている。早速議題に入る。

1 執行部報告事項

(1) (仮称) 浜田市まちなか交流プラザの整備 (案) について

(2) 浜田駅待合所における高校生の学習スペースの確保について

笹田議長 | 2件は関連するので一括報告とする。地域政策部長。

地域政策部長 | (以下、資料をもとに説明)

笹田議長 | 教育部長。

教育部長 | (以下、資料をもとに説明)

笹田議長 | ただいまの報告について質疑等はあるか。

岡本議員 | 万が一スペース内でトラブルが起きたら周りに通報するのか。防犯カメラについて説明をお願いします。

地域政策部長 | 万が一のトラブルと防犯カメラの関係は、まちなか交流プラザについてでよろしいか。

岡本議員 | 駅のほうの説明をお願いします。

教育部長 | 駅舎内のことなので普通の駅としての防犯対策やトラブル防止の対応をしていただき、学習スペースのための椅子やテーブルを設置するほかには特に考えていない。

岡本議員 | 駅前の交番には常時人がいるわけではない。タクシーも1社やめられたので、あそこに全てのタクシーがとまっていることもない中で、何かあったときにどうするのか。

教育部長 | 以前、駅前でいろいろな事件が起きた。そのときに対応を話し合った過去がある。駅前にはいろいろな人が集まるという観点から、その辺の対策も何らかの形で。教育機関ができないなら向こうに申し入れる、もしくは警察に要望を出してほしい。

教育部長 | 交番やタクシーなど駅舎に関係する方に見守りをお願いするようなことは今後進めていきたい。

川上議員 | 中央図書館の学習スペースは午後7時までである。駅は9時まで。しかし中央図書館の多目的ホールは午後9時まで開いている。つまり図書館自体は9時まで開いているのに、学習スペースだけ7時で閉めてしまう理由は何か。

教育部長 | 広いスペースを開けておくにはそれなりに人員が必要なので、今はコミュニケーションスペースのみで監視員1人体制を取っている。学習されたい方はそちらを利用するようお願いしている。

川上議員 | 現地に行くと大して広くない。監視員1人で十分だと思うが、9時まで開けておいてもよいと考える。そうすれば高校生もわざわざ駅まで行く時間のロスがないだろう。その点は考える余地があるのでは。

 | 何が言いたいかというと、中央図書館ももう少し開放性を持ったほうがよいのではということ。それが大事だろう。2階も多目的ホールも

教育部長

夜はほぼ使っていないので、昼間の予定が終わった時点で開放して、そこを使うことも考えなければいけない。検討したことはないのか。

汽車の利用者はかなりの人数がいる。その全てが最終便で帰るわけではなく順次帰宅する。まとまった時間を例えば図書館で勉強して、汽車が来るまでのちょっとした時間を学習スペースで勉強するような形で。本気で勉強するなら図書館を利用したり、できるだけ早く帰って勉強されると考えているので、人数的な容量については時間ごとにだんだん減っていくものと考えている。

川上議員

多くの人数がいなくてそういうことはなかなか難しいような判断をされたが、結局中央図書館は駐車場が全部無料で、親御さんもそこで待機できる。そう考えれば、駅前長時間の駐車ができない。そういえば中央図書館をもう少し開放して、浜田市のために、浜田の子どもが勉強する場所をそこへ持っていくことも一つの手だと思う。ぜひこの点も検討いただき、もう少し中央図書館を活用されるように。

中央図書館に実際に行って、見てみればよい。確かに予約はたくさん入っているようだが、車はたくさんいない。ということは何に使っているかが問題だと思っている。できたら2階を区切るなどされたほうがよい。

市長

本来教育長が答えるべきかもしれないが、私から少し答えさせていただく。

市民一日議会等で列車の待ち時間に勉強できる場所をというご意見があった。そこでいろいろ聞き取りを行ったところ、川上議員からもあったように学校や図書館での利用時間が夜7時くらいまでしかない。その後の時間を過ごす場所がないというのが、どうも一番の原因だったと思っている。

今回提案しているように駅舎1階に学習スペースを、これは高校生だけでなくネット環境を整えてビジネスマンにも、ということも併せて整備する予定である。

そもそも図書館の利用時間を延ばしたらよいというご指摘だが、夜7時までにしていただいていたのは何らかの理由があったのだろうが、延長できないかどうか教育委員会と改めて検討してまた報告する。

教育長

まず図書館の学習スペースというのは本の書架がある中のスペースのことであり、ここは貸出業務含めて職員が時間を決めて張りついている。今改めて市長からも指示を受けたので検討したい。

ただ、川上議員がおっしゃるように2階の会議室などの状況についてももう少し詳しい情報を集め、管理上もし可能であればどこまで開けるかについて検討したい。

川上議員

よい答えをいただいたが、できたら2階の多目的は二つに分かれるので、第2多目的ホールを専用にしても構わないのでは、ということも検討していただきたい。

串崎議員

少し疑問に思うのは、これは若者から高齢者の交流の場という構想がある。若者は当然大事だが、やはり浜田市は高齢化率が高く高齢者も大変多い。この構想には高齢者のことがほとんど書いてない。違和

- 地域政策部長 感を持つのだが、どのような考えで構想されたのか。
- 地域政策部長 まちなか交流プラザの整備に当たっては、資料には「若者と市民」という表現を使っているが、決して若者だけということではなく多くの市民にご活用いただきたいと思っている。広く市民の交流促進と位置づけているので、高齢者と若者、市民がしっかり交流できる場として有効に活用していきたい。
- 串崎議員 意味はわかるが、文字として高齢者の方、頑張ってこられた方は大変大事な方なので、もう少し入れていただきたい。
- 地域政策部長 それと最初の資料の中に、団体等の中に日本海信用金庫の名前がある。あえてこの団体だけ名前が出されたいきさつは何か。
- 地域政策部長 日本海信用金庫におかれては、今回のまちなか交流プラザ整備に当たり信金中央金庫の企業版ふるさと納税を活用させていただいている。これの地域担当金融機関ということで全面的にお世話になっており、またこの有効活用に当たっても金融機関として全面的に協力をしていただけるということで、特定の金融機関名称ではあるが資料にも掲載させていただいた。
- 足立議員 駅舎内の高校生学習スペースだが、何時まで使えるかが資料に書いてない。説明をお願いします。
- 教育部長 益田方面の21時41分の汽車に乗る生徒の利用を想定している。
- 副市長 そもそも市民サロンは午後6時までは観光協会職員が物販施設の営業のために滞在している。6時になると物販ブースはシャッターをして、夜の待合に使っていただく。22時になると自動的にシャッターが下りて入れないようにしている。私もたまに夜に行くと、22時少し前になると音楽が流れて自動的にシャッターが下りて閉鎖する。それまでは使える。列車はそれまでに出ていくが、ほかの方でも22時までは使える、そのルールは変わらないと思う。
- 菅田議長 今は防犯カメラも設置して安全対策はしてあるが、今後必要であれば交番との連携やタクシーとも連携しながらしっかり安全対策をやっていく。基本的には今やっているシステムをそのまま活用しながらやるのが原則である。
- 足立議員 内部でしっかり協議してから答弁するように。先ほど岡本議員へ答えた内容と変わっているの。
- 足立議員 ということは24時間ではなく一応22時が一つのめどということで理解できた。JRはバスもある。大学方面に帰る最終バスが多分22時03分あたりだった。特に今の時期は寒いので、そういうところでも待合いできるのはありがたい。
- 教育部長 しかし先ほど川上議員が言われたように、そもそも論として中央図書館のスペースがきちり確保できるのであれば、ここは不要なのではとふと思った。そういう協議は内部でなかったのか。
- 教育部長 先ほど川上議員から出た指摘については私も気になったので、先週水曜日の7時半ごろに図書館へ行ってみたところ、2名が使っていた。それがテスト期間中になるとまた違うのかもしれないが、ここを遅い時間まで多くの方が使われるようなら利用可能時間の延長も検討して

教育長

いこうかと考えていたが、利用できるよう検討するようにとの話だったので検討していきたい。

特に高校生だと思うが、学校が閉まった後に高校生が学習する場所が少ないという事情がそもそもあった。場所をいろいろ考えていく中で、駅で勉強できれば列車の発車時間ぎりぎりまで利用できるのではないかという意見があり、そうであればサロン内の、今の待合室に少し手を加えることで学習スペースが確保できるならやろうではないか、ということで検討を始めた。したがって今ご指摘いただいた図書館のありようについても今後改めて検討したいと思う。そういう場所が複数あってもよいのではないかと思っている。駅舎にプラスアルファとして機能を追加して使えるようにしようというのがそもそも考え方の根本にあるので、今回のような提案をさせていただいた。

足立議員

今の説明で大分理解できた。プラスアルファでの駅中の学習スペース確保という観点でいうと、非常によいことだと思うし、図書館をせめて21時まで利用させてほしい。教育長が先ほど言われたように、そういった場所を複数用意する。図書館と福屋と駅中の3か所あれば子どもたちは選択ができるので、ぜひそのように進めていただきたい。

年間利用見込みの回数や人数などは、大学のほかの団体等にも直接聞き取りをされてこの数字が出てきたのか。

地域政策部長

関係する団体に全て直接聞き取りさせていただいた結果で、現時点で利用を想定できる回数・人数を集計したものである。

足立議員

先般三浦議員からこのことについて、中間支援組織の役割について質疑等があったかと思う。その際執行部側の回答はなかなか明確でなかった記憶がある。とはいえ今日の資料を見ても、お金の部分は何ら変わりがない。これで本当に果たして中間支援組織がこの立ち位置で、中間支援組織としても事業ができるかどうか、正直なかなか難しいのでは。先日の話だとこの230万円は物品費等も入れて主には人件費とのことだった。大した額ではない。それだと中間支援組織自体の本来の活動、これは店番するだけのお金ではなかったと思うので、であればその組織体が本来の活動をするために、これではなく例えば1千万、1500万円くらいをきちんと事業費として上げることによってその組織体が責任を持って活動できるように、ということを経験されたのか。

地域政策部長

委託料230万円についてはほとんどが人件費になっている。当面9か月分なので年間に直すと約300万円だが、これで十分かどうかというご意見もあろうかと思う。あくまでこれはまちなか交流プラザの管理運営委託部分であり、先ほどご指摘のあった団体本来の活動部分については別途若者会議の支援事業ということで、別予算で活動費を支援する予定としている。

足立議員

施設管理運営なので、ここに誰がいるということである。中間支援組織は何十人もいるわけではない。それを考えたときに、ではその組織体の活動はまちなか交流プラザになろうかと思う。そこに集まってこないといけない。そこを中心とした活動を展開しないといけないのに、別予算があったとしても人件費しか配布しないで、本当にできる

副市長

のか。この予算ではなくもっと多くの資金を投入することで、このまちなか交流プラザ本来の役割が出てくるのではないのか。

中間支援組織ファンタスの活動がこれから本格化するに当たり、経費等も必要になると思っている。ただ今回のこの予算計上に当たっては先般も担当部長がファンタス代表者と十分議論し、自分たちはここでしっかり活動したい、その中では主たる現場管理者にもなつてやるということ、活動費は若者会議への支援として別枠でもやっている。もう一つ商工会議所と協議しており、建物3階のどこかで中間支援組織が事務局として使える場所の確保ができるようお願いし、前向きに検討してもらっている。何階のどの部屋といった具体的なところまでは回答いただけてないが、協力したいと商工会議所からも報告を受けている。まずは事務局を確保する。運営についてはこちらからも支援する。今後法人化する際には決算の支援や帳簿確認なども商工会議所が応援するとのことである。せっかく立ち上げられた中間支援組織なので、我々が考えていることや本人たちが考えていることが実現できるよう一緒になって取り組んでいきたい。その拠点としてここを活用したい思いで、お互いしっかり議論させてもらっている。

足立議員

商工団体の取りまとめた組織体が福屋に入る。そこに住民が入ってくるというよりは、例えば商工労働課がその中に入って商工会議所と連携しながら、かつ日本海信用金庫も入っているのだから、地域の事業所のバックアップ体制を取るとか。まちなかの交流はわかるが、一方でコロナで疲弊しているこのまちなかの事業も促進していかなければならない。浜田市役所は支所がたくさんあるが人口5万人。あちこち支所が分散している現状もある。今後ICT化が進んでいき5G、6Gとなる中、部署が庁舎にいる必要性が果たしてあるのかも含めると、商工会議所と本当に一蓮托生でやっていくなら、関係部署がそこへ移行してもよいのではと思う。商工団体がまちなかの真ん中に来て、誰もが寄りやすい環境づくりという選択を取られたのだろうと推測する。だから日本海信用金庫もバックアップしているのだろう。そうした考えもぜひ持っていただきたい。そういう考えはあるか。

副市長

商工会議所は事務所を移転するだけでなく、せっかく駅前にも事務所を構えられるなら商店街や商工業者の中心となる商工会議所もこれまで以上に尽力されたいと申しておられる。

市の商工労働課等がそちらに行くかどうかは、これまでもいろいろな提案をいただいている。今後組織内の配置を考えるにおいて一つのアイデアだと思っている。実際に商工会議所が駅前に移って今後業務される。駅前を賑やかにしたい、活性化したい思いを持っているので、それに向けて一緒に取り組んでいきたい。

三浦議員

3番の利用見込みについて伺う。回数や人数が示されているが、この事業は新規のものか。

地域政策部長

全てが新規ではない。各団体に聞き取りする中では、これまで実施されていたものを、より交流を深めるためにまちなか交流プラザを利用して開催したいというものもある。

三浦議員

すると今まではほかの場所でやっていたものをここに持ってきて、ここでやるほうがいろいろな効果も期待できるということなのだろうが、そういう形で活動の質が上がったり、巻き込む人の数が増えたりするのは非常に喜ばしいが、ほかでやっていたものがこちらにただ動いてくるだけだと、まち全体の活動量は相対的には変わってない。質を上げるためにこの場所でやるのだというなら、この場所で何をしなければいけないかがわかってくる。ファンタスに対する期待や、商工会議所が上階におられることへの期待や、大学がもっと地域にかかわることへの期待、そういうところ、それがこの事業のコアな部分だと思う。そうしたことをヒアリングを通して改めてどのように感じられたか。先ほど足立議員からも指摘があったと思うが、その期待に応えるための事業費がないと、来られた方に対応するだけではヒアリングに答えた方々がこの機能に対して期待している動きができるかなというのが一番気になる。若者会議に対する補助金はもともと若者会議が発足したときから想定されていたものなので、その議論を経てそこで出てきた活動に対して補助金が出るのはわかる。しかしそれと、ここでヒアリングされて出てきている活動内容とは必ずしも一致しないと思う。その一致しない事業に対しては誰が資金調達するのか。それはもう補助金で賄える活動と理解してよいか。

地域政策部長

まちなか交流プラザを活用してさまざまな取組をするというのは先ほどおっしゃったように、質の向上だったり交流促進だったりを目的としているので、これまで単に別の会場でやっていた活動を移転するだけでなく、質の向上を図りたいため、ファンタスに依頼する。

ファンタスの活動もファンタスだけで全てやるのではなく、浜田市の会計年度任用職員を採用したり、浜田商工会議所も全面的に協力いただくとのことである。この整備に当たっては、浜田商工会議所と島根県立大学から有効活用についての要望書・提案書ということで書面もいただいております、全面的にこの活用・運用に当たっては協力するとの意思もいただいている。ファンタスに委託する230万円で全ての事業経費を賄うということではなく、あくまでその委託料はファンタスの企画立案やコーディネートなどにかかる人件費相当のみと基本的には思っています。

三浦議員

それは理解していて。会計年度任用職員も市から送る。会議所も週に1日程度体制をバックアップする。それはいい、よくわかる。230万円の人件費をつけてその管理をすることは想像できる。ただ、先ほど申し上げたように、ほかの団体にヒアリングされる中で今やっている活動をここでやればもっと質が高まるという期待がある。すると、そこにファンタスなり会計年度任用職員なり会議所職員なりがいることではなく、その人たちと何をすることが大事なわけで、ここに事業費が必要になってくる。その事業費はファンタスに対する、若者会議の延長線上にある補助金で全て賄えるのかという質問なのである。必ずしもそれは一致しないのではないかと、一致しないところの事業費は誰が調達してくるのかという質問なのだが。

地域政策部長

まちなか交流プラザを活用して行う交流事業については、基本的にはそれぞれの団体が費用負担する形になるので、ファンタスが費用負担することはないと考えている。

三浦議員

それならすごくよいと思う。各団体がやりたい事業費をここに投下して、そこに必要な事業費が団体から投入されれば、その事業費の中からファンタスあるいはそこにかかわる人たちの、それはそれで、まちなか交流プラザ運営費ではないところで事業収入が得られる。それをしていかないとファンタスの運営は収入もないし、ここの運営の持続可能性は担保できない。県立大学なり会議所なり、あるいは地域活動の事業費がここに集中投下されて、しっかり質が高まるというのがこの事業の狙いだと思う。そうしないと、230万円の中では事業の企画などできるわけがないし、彼らがやりたいと言っている補助金が充てられる事業だけでは皆の期待に応えられない。その財源が気になっているのである。

市長

ご指摘ごもっともだと思っている。全体的なことを私から説明させていただく。

今回まちなか交流プラザをつくるに当たり、地域の人やさまざまなところから、やはり交流の場がほしいという意見があった。それを踏まえてのことである。議員からは既にいろいろなところで活動しているのを、単に集まるだけではないか、それだけでなく新しく取り組むこともあるが。三浦議員からは「質を高める」という話があったが、交流することによって化学反応を起こす。さらにそれが広がってもっと大きな活動につながっていく、こういう期待も実はしている。

先般11日にまちづくりフォーラムがあった。長田先生が総括で話していたのが、まちづくりで一番重要なのは仕組みづくりだと。今回このまちなか交流プラザはまさに浜田市における交流の仕組みづくりのスタート台に立ったと思っている。活動する中において必要なこと、人的なもの、予算的なもの、今後出てくるかもしれない。現在のところはこれくらいあればできるかなということでスタートするが、スタートしながら、また利用者などの声を聞きながら、必要とあれば今後さらに予算化することも考えていきたい。今のところはまだ見えないので、まずこれでスタートして、仕組みづくりのスタートをしようと考えている。

三浦議員

市長がおっしゃるとおりだと思う。私もまちづくりフォーラムを伺って、長田先生が社会教育を通じて、社会教育は仕組みづくりなのだとは何度もおっしゃっていたのを聞いた。ではその仕組みづくりをするときに、まずこうして場所を仕立てよう、人もそこに調えようといったとき、その人たちがスムーズに動いていくための資金も一緒に投じないと仕組みは動いていかない。車はあってもガソリンがないと。資金やきっかけを投入していかないとうまく動いていかない。せっかくまちなか交流プラザというコンセプトで新しい場所、交流も質を高めていこうというなら、そこに新しくかかわるファンタスや会議所の人たちが一層活動できるように、行政としてどういうサポートができる

- のか。人件費だけでなく、若者会議の延長線上の補助金だけでなく、しっかり協議しながら事業費を投入していく。地域の人たちから、あるいは企業からの資金も投入されることで、交流は促進されていくと思う。そういう仕組みづくりをぜひしっかりやっていただきたい。そういう期待を込めて、仕組みづくりをこれからも見ていきたい。
- 村武議員 まちなか交流プラザの委託を出されるファンタスについて伺いたい。ファンタスは若者会議のメンバー有志により結成された組織とのことだが、現在の人数と、学生と学生以外の内訳を知りたい。
- 地域政策部長 現在のメンバーは10人で、うち県立大学生が2人である。
- 村武議員 恐らく学生以外の方はほかに仕事を持っておられると思う。学生も授業に出る。この人件費はファンタスメンバーに向けての人件費なのか。
- 地域政策部長 委託料の人件費部分についてはおっしゃったように、ファンタスで確保されたスタッフの人件費となる。
- 村武議員 ファンタスのメンバー以外の方もここに携わるのか。
- 地域政策部長 ファンタスメンバー以外にも、例えば県立大学生を必要に応じて配置することも考えられる。
- 村武議員 やはり学生が2人とのことなのでそうなるのかなと思う。開館時間が9時から21時までなのと年中無休なので、このメンバーと会計年度任用職員だけで回すのはなかなか難しいだろう。そうなったときに、メンバーとメンバー外の仕事内容に格差が生まれてくるのではと感じるのだが、どのように考えているか。
- 地域政策部長 交流促進やコーディネートを期待しているが、議員おっしゃるようメンバー以外の方であればなかなかそこまでは難しい部分もあるかと思う。例えばメンバー以外の県立大学生をスタッフとして配置する場合においても地域活動をされている学生であったり、地域政策学部の取組に熱心な学生をファンタスには募集して配置してほしいと思っている。
- 村武議員 これを進めるに当たりファンタスとのしっかりした協議が必要になると思う。恐らくされているとは思いますが、お互いに気持ちよく活動ができるようにしていただきたい。よく言われるのだが、やりがいの搾取にならないようにしていただきたい。
- 地域政策部長 年間の利用見込みについてほかの議員も質問していたが、私はこの数字を見たときに、かなり多いと感じた。私は以前公民館に勤めていたが、集客のためにどうしたらよいのかすごく頭をひねってもなかなか難しい。それなりにスキルを積んで勉強してもなかなか難しいという現状があった。ファンタスのメンバーもそういったスキルをお持ちの方かもしれないが、この見込みの数字がファンタスにとってプレッシャーにならないか心配した。そこもしっかり協議していただきたい。
- 地域政策部長 施設の管理運営に当たってはファンタスとしっかり協議していきたい。これまでも委託をするに当たっては会議を重ねていくと整理した。この利用見込みは浜田商工会議所、県立大学、日本海信用金庫、高大連携関係者、そういったところからの直接的なヒアリングを行った

結果であり、この回数全てをファンタスが調整するというのではない。

資料2ページ目①に浜田未来ネットワークの運営というのがある。この中には県立大学、高等学校、商工会議所、信用金庫等がメンバーとして入っており、どういった交流活動ができるかを協議調整する場にもしている。ここでしっかり有効活用について検討していきたい。

柳楽議員

整備目的のところに「若者、学生、市民等の協働によるまちづくりの推進」と「駅周辺の活性化と若者等の居場所づくりによるにぎわい創出」と書かれている。イメージがなかなか湧かない部分がある。二つ目の駅周辺の活性化となると、この浜田地域中心の取組というイメージがある。この事業が周辺の4地域にどういった形で波及するのか、イメージが湧かない。そのあたりの考え方について伺いたい。

地域政策部長

もともと駅周辺で整備するという事なので、中心市街地の空き店舗の増加や市街地の空洞化といった課題解決がある。また県立大学があるまちということで、大学生と若者との交流事業ということで計画したものである。

浜田地域以外の4地域とは物理的に離れているが、中心市街地の活性化が浜田市全体の活性化につながるものであると思っているし、若者の利用促進ということでは浜田地域に限った利用ではなく多くの市民に活用いただきたい。場所は駅周辺になっているが全市的な活用を呼びかけていきたい。

柳楽議員

ファンタスがここでいろいろなことを検討されて、地域づくりなどに貢献していくのだろうが、その中には周辺地域についてもこういったことが進めばまちづくりが進むのではないかとといったことも含めて検討され、また地域で取り組まれていくところにつながるのか伺いたい。

副市長

このことは先般の協働のまちづくりフォーラムでファンタスが発表しておられたように、ファンタスメンバーは5地域それぞれの出身者が入っているし、地域に出かけていろいろなイベントをやりたいとも申しおられた。ここを拠点として、利用見込みを出したが、逆に周辺地域の方にも来ていただき一緒に社会活動や交流会をやる、逆に出向いていく。ここでだけやるのではなく、ここを拠点として各地へ出かけることもあると思う。そうすると全市的ないろいろな動きが出てくるのでは。それぞれ地域にかかわりを持っている方なので、いろいろな交流の仕掛けをされるのではと思っている。

柳楽議員

私だけが思うのかもしれないが、ぜひ周辺地域の皆にもこの事業がどのように周辺にも波及するかがわかるような説明も行っていただきたい。

佐々木議員

まちなか交流プラザで若者から高齢者まで世代を超えた多様な市民交流の場というたい文句のこの施設で、どのような事業をやるのか、コーディネーターを誰がするのかと質問した。そのときには、ファンタスが今後考えていくといった話で。先ほどからいろいろ聞いていると、はまだ未来ネットワークという団体名も出てきて、そこも考えていくとのことだった。ファンタスへの230万円はほとんど人件費だとの

ことだが、今後何をするか、コーディネートも入っていくような話だった。そもそもこの交流の場事業を考えるに当たり、運営する人たちが考えるのも一つの手だろうが、市民の方々、若者だけでなく若者から高齢者まで世代を超えた方々がこのまちなか交流プラザで何を望んでいるのかも、少し調べながら事業の中身を検討していただきたい。

そもそも何をやるか、コーディネートはどこが主体になってやるのかがよくわからない。

地域政策部長

まちなか交流プラザの管理運営のコーディネートについては、議員ご指摘のように高齢者等の利用も含めて考えていく必要がある。はまだ未来ネットワークの組織化の中では、県立大学や高校、浜田商工会議所のような形で説明したが、それ以外にも地域活動を行っておられる団体の意見もしっかり聞く中で、どういった活動、取組ができるか議論した上で、ファンタスにコーディネート等を行っていただきたい。

佐々木議員

軸となるのはやはりファンタスで、ファンタスがいろいろな団体から聞き取りをしながら事業を考えていくということか。

地域政策部長

はまだ未来ネットワークの中でいろいろ提案があって実行したいような取組、交流活動について、ファンタスが具体的に調整しながら実施する形になると思う。内容についてはそれぞれの団体が直接まちなか交流プラザを活用して実施することももちろん多くあると考える。

佐々木議員

その形がまだ決まっておらず、ファンタス中心で、必要に応じてはまだ未来ネットワークとのかかわりが多いのだろう。はまだ未来ネットワークには高齢者の方が入ってないし、地域からも聞き取るとのことだが、それもどういう形でやるのがよいか非常に難しい。何をやるかをファンタスに委ねるのは負担になるし、それが市民交流の最適の場につながっていくために難しい手法を求められている。それら全てをファンタスにお願いする形で市とは話がついているのか。ファンタスがこの事業をどのように捉えているのか、ファンタス側の感覚が伝わってこない。若者会議でいろいろなことをされているとのことだが、ファンタス自体のこの事業に対する思いがわかれば願います。

地域政策部長

委託業務の協議に当たってはファンタスと何度も議論を重ね、委託の整理ができたと思っている。当初ファンタスもまちなか交流プラザの受託に当たっては非常に不安を持っておられた。専任スタッフがおられるわけでもないし。そのあたりについてははまだ未来ネットワークとの連携や、市の会計年度任用職員、商工会議所とも連携を取りながら行っていくということでご理解いただき、今回まちなか交流プラザの管理運営を受託いただいた。ファンタスも交流活動のコーディネート、企画立案については現時点で一生懸命やっていきたいという考えだと伺っている。

佐々木議員

ファンタスも当然ながら不安を持ちながらスタートということなのだろうが、不安と聞いて私も不安になった。やはり何かバックボーンになるようなことが必要だと思った。ファンタスを支える意味で検討されたほうがよいと思うがどうか。

地域政策部長

説明が不十分だったがファンタスに全てを任せ切りにするのではな

- く、市も一緒になってまちなか交流プラザを有効活用していきたい。
- 西田議員 中間支援組織というものは浜田市にとって極めて重要だと思うし、先ほど市長も、これは若者の声を聞いたところ交流の場が欲しいとのことなので、交流の場をつくることで化学反応を期待していると言われた。仕組みづくりの第一歩、スタートラインとしてはこれでよいのではないかと私も思う。ただこれから、若者中心の中間支援組織がこれからどの程度に育っていくのか、最終的にはどれだけの権限を持って浜田市の中でいろいろな企画立案をして、浜田市民も一緒になってどう育っていくのか。市としては、この中間支援組織に今後どの程度の権限を与えようと考えているか。
- 市長 浜田市にとってファンタスのような組織は初めてではないかと思う。特に交流の場づくり、そのための場の提供あるいはコーディネートを担っていただく組織として大いに期待している。
- 今後、行政として人的にも予算的にもファンタスをしっかり後押しして、地域の人が交流し、活性化につながっていくよう期待している。そのためにもしっかり応援していきたい。
- 西田議員 先般、総務文教委員会で視察に行った。他自治体の中間支援組織のあり方に比べて浜田はまだまだである。中間支援組織が相当な権限を持たれ、資金源もある程度責任を任されている。そのすばらしさを実感した。よい組織になるよう、市はある程度若者に任せる方向性がふさわしいと私は思っている。
- 小川議員 まちなか交流プラザの設立に向けての趣旨や役割は非常にわかるのだが、問題になるのがネーミングについて。今の時点でどのような考え方をしているか。若者にこの話をすると非常によいことだという声が返ってくるのだが、まちなか交流プラザという名前自体はあまり若者向けではない。例えばパレット江津のほうがかっこいいとか、そういう率直な声を聞いている。ネーミングはいずれ何らかの形で公募されるか、あるいは若者会議内で検討されるか、あるいは執行部内で検討されるかわからないが、考え方についてお聞きしたい。
- 地域政策部長 今3月定例会議でまちなか交流プラザ設置条例を上程する予定である。そこでは正式名称はまちなか交流プラザとしている。ただ、議員から話があったように若者から親しみやすいネーミングも必要だと考えられるので、愛称等についてはまた別途協議したい。
- 川上議員 まちなか交流プラザはファンタスがそこを居場所として活動すると言われる。ファンタスが、ファンタスが、と。交流したければ各まちづくりセンターへ行けばよい。そこへ動くだけでも相当な労力だと思う。そこから活動していった初めてファンタスの活動が目に見えてくる。わざわざ真ん中に活動拠点を設けることが本当によいのかを考えてほしい。この方々が地域に入っていくことが大事である。地域に入っていくためにそこを使われるならよいが、今聞いていたら活動のためにそこが全部だという方向性しか見えてこない。柳楽議員も言われたように活動が偏っているのではないか。そのために場所を提供し予算も提供していく。2年後、3年後には何千万という予算をつけるパタ

副市長

ーンも考えられる。それでよいのか。ファンタスには、中山間地域のために活動してほしい。それは賛成する。であれば、中山間地のまちづくりセンターへ行って基盤をつくっていただきたい。それから動くのが本当だろうと考える。

今はまちなか交流プラザの方針や活動について話している。ファンタスは協働のまちづくりフォーラムでも言われたように、令和5年度は五つのテーマを持って活動したいと言われている。その中に、五つの地域に出向いて活動したり、地域の公共交通の調査研究をしたいというのがあるので、ここで全てをやるということではないと思っている。ファンタス独自の活動目標もつくっておられるので、市がまちなか交流プラザとしてやっていただくことに関わってもらい、プラス、別のこともやっていく。先ほど言ったように各地からの代表者もおられる、実際旭の方は旭に拠点をつくっておられる。多分そういう動きもされながら、でかけていくこと、地域からここに来て一緒に交流することなど、いろいろな連携をされると思っている。当然今後いろいろ協議する中で、浜田市全体がいろいろ活性化するための拠点として使っていただく考えである。

笹田議長

ほかに。

(「なし」という声あり)

ここで暫時休憩する。

〔 11時 22分 休憩 〕

〔 11時 31分 再開 〕

(3) 三桜酒造跡地の活用について

笹田議長

全員協議会を再開する。市長。

市長

私からご説明したい。資料を見てほしい。

(以下、資料をもとに説明)

笹田議長

ただいまの報告について質疑等はあるか。

足立議員

鑑定額2億4,200万の坪単価18万4,132円の部分は、固定資産税評価額などいろいろな金額があろうかと思う。この鑑定士は何をベースにこの金額を出したのか。

都市建設部長

駅周辺の事例等を参考に算定してもらっている。

足立議員

事例とは売買事例か。

都市建設部長

売買等の単価を参考に算定してもらっている。もう少し具体的に申し上げますと、浜田市黒川町の平成30年の取引単価、浜田市相生町の平成30年の取引単価、浜田市田町の令和元年の取引単価をもとに算定いただいている。

足立議員

3の(2)①検討目的で、浜田駅周辺のにぎわい創出に触れられている。まちなか交流プラザの目的や説明の中にも、にぎわいという言葉が出てくる。まちなか交流プラザと三桜酒造跡地の取得はリンクしているのか。その先はどのような流れになっているか。

市長

その辺は検討委員会に検討いただくので、我々から考え方を言うの

- はどうかとも思うが、思いを言えば、浜田駅前ロータリーも整備したし、どんちっち時計もあるし、どんちっち浜っ子ステーションとしていろいろな施設もある。一方では人が集まる場所がなかなかない。こういったことも視野に入れながら検討していただければと思っている。あくまでも検討委員会で検討されるべきであり、その後は委ねたい。
- 足立議員 市として浜田駅から中央図書館までのルート内に、まちなか交流プラザも三桜酒造跡地もある。執行部側はここを取得することによる中心市街地活性化など、ある程度の考えはあろうかと思う。浜田市の中心市街地をどのようにするのか。その辺は市民にきっちり説明できるようにしてほしい。
- 市長 当初予算にまちなか交流プラザが上がり、三桜酒造跡地の話も出てくると、市民はどうしても一緒にたに捉える流れになってしまう。そこを分けて説明されるのか、それとも一緒なのか、これから町なかをしっかりと整備していくという強い思いがあるのかどうかは明確にしたほうが、より一層市民は理解しやすいと思う。その辺の考えがあれば伺いたい。
- 市長 検討委員会で検討いただきたいと申し上げているので、あまりこのようにとはっきり言うのは控えさせていただくべきかと思う。
- 一方、例えば境港には鬼太郎ロードがあり、ずっと歩いていくとオブジェがあり、その先に水木しげる記念館がある。年間300万人近い観光客が訪れるなど、境港のあの通りは活性化している。そういうイメージで。浜田の場合はやはり一つは石見神楽だと思っているし、駅前にどんちっち時計もある。どんちっちステーションもある。駅前交番は愛称どんちっち交番である。そういうことも踏まえながら、あの地域どうすればよいのかを今後検討していただきたい。
- 岡本議員 検討委員会にお任せするのは十分理解するが、市も主導的にその中に入ってほしい。
- 駅北を考えてほしい。以前J Tの土地を市が買い取るなど、都市計画という位置づけでかなり変わってきた。今度は駅の南で、中央図書館、警察署、浜田高校、これも一連の建物という位置づけがあるのだろうと思っている。都市計画は当然民間ができるものではない。地方公共団体がやるものである。しっかりした構想を練り込んでほしい。この地域の建物も含めて計画が変わるのだろうと思う。検討委員会に任せすぎだと思う。
- 市長 お任せするといっても、検討委員会に検討いただく際には、これまでも市民や企業、団体から活用についていろいろな意見が出ている。石見神楽関連施設をつくったらどうかという意見もある。そういうことも踏まえて検討をお願いしたいと考えている。
- 岡本議員 駅北ができ、医療センターが移転したことから、駅の南がかなり衰退したという話も聞くし、大分寂れてきていると私も思う。このあたりが活性化に向かうようしっかりした議論を重ねて提案してほしい。
- 牛尾議員 この問題が新聞に載ってから、いろいろな市民から、ゆうひパークに始まって浜田市は不動産屋をやるのかという質問がよくある。確かな話かどうか知らないが、三桜酒造の元会頭が亡くなる前に、この土

地をできれば浜田市のために有効活用してほしいとのことで、ご遺族から市に申し入れがあったと聞いている。

ある市民は、J T跡地を浜田市が取得してアンダーコントロールして、まちづくりのためにシフトしていったのと一緒に、30年、50年先のまちづくりを考えたときに、何が建ってもよいというのではなく、文教ゾーンのあるところにあるべきものは検討委員会なりで議論されて、将来の浜田のまちづくりのためにあるべき答申が出るだろうと見ていると言われた。

あの土地全てを浜田市が取得してものをつくるわけではないので、そのようにいかないときは、あの場所は引く手あまただろうから売買もする。人によっては、あの土地全てを市が買い上げて箱物を建てると曲解されている場合もある。私からは、転売の可能性もあろうし、丸ごと買ってわけのわからない箱物を建てるわけではない、少し様子を見てほしいと説明しているが、そういう見方でよいのか。

市長

牛尾議員が言われたように私どもも考えている。地権者の方から1月31日に浜田市に売却する旨の文書もらったが、その中に、浜田市の将来のために活用してほしいという一文が入っている。地権者の方が言われるには、あそこを売ってほしいという事業者は何社もあったと。恐らくそちらに売るほうが価格的にも高かったかもしれない。しかし浜田市発展のためにあの土地を活用してほしいという一文を入れた承諾書を頂戴した。

駅前通りの向こうにあり、かつまとまった土地なので、地権者の意向も尊重しながら、将来の浜田にとってどういった活用法があるかしっかり考えて、地権者のご希望にも沿いたいと思っている。決して市が不動産業をやろうなどという気は全くない。あの土地だからこそ市として取得して、活用法を検討したいと思っている。

川上議員

令和4年8月までのいきさつについて説明をいただいた。あの土地はもともとデベロッパーが手をつけて地主と交渉していて、そこで地主から浜田市で活用してくれという話が出たのでデベロッパーは手を引いたと聞いている。売買単価は知らないが、浜田市に活用してほしいというなら、もう少し単価も考えていただいたほうがよいかと思う。更地で買うことはよいが、もう少し利用価値がある形の単価にしていただければとも考える。同時に、あの土地は現在商業ゾーンである。文化ゾーンではない。だからデベロッパーは商業ゾーンとして扱っていたはず。もし今後検討の中で商業以外のことをされるなら、ゾーンを変えるのか。浜田市はどのように考えているか。

都市建設部長

ご指摘のように用途としては商業地となっている。利用目的がそういうことで市の役に立つものという地権者のご意向も酌むが、それによって建てるものの用途を変更することは今のところ考えていない。

川上議員

要するに現時点では考えない。しかし将来的に浜田市がこうしたいという思いがあれば用途地域も変更する可能性がある。通常デベロッパーが計画を出したときはここは商業地として扱うが、浜田市がやるときはそれは考えない、変更してもよい。優柔不断な返答だと思

- う。松江市は既に全廃しようかと言われている。浜田市もそろそろ使い方をもう少し自由にされたらいかか。それについて考えはないか。
- 都市建設部長 時代の流れによってそれぞれ土地利用は考えていかなければいけないと思っている。用途利用についてはまた見直す時期があるかと思うので、その時期に合わせ将来も見据えて検討していきたい。
- 川上議員 先ほどから市長は、もともと計画というものはないが浜田市の今後のために必要だということを少し言われながら、なおかつ神楽資料館の考えもあるのだと言われている。どうもこれを見る限り、何か目的があって買われたのは確実である。その目的が何か、ここで確実にお答えいただくとうれしいのだが。
- 市長 先ほど来、ほかの議員の質問にもお答えしたが、今後検討委員会を立ち上げて、検討委員会で議論いただくことなので、市長が今の段階で用途を断定することは控えたい。ただ、石見神楽の関連施設という提案も受けているので、そういうことも踏まえながら有効活用について、また公共的観点、またにぎわい創出につながるような観点からの活用を、今後検討委員会で検討してもらいたい。
- 川上議員 2億円以上の買い物なので、恣意的にならないようしっかり検討委員会で多方面に検討いただき、浜田市のためになる、市民のためになる活用をしていただくようお願いする。
- 三浦議員 立地を考えれば、あれだけのまとまった土地が地域に対してどのように使われるかは、都市計画やまちづくりにおいて大変重要な視点だと思う。市が取得してそこにどのような公共施設あるいは公共サービスを機能させるかによってまちがどうなるのかが一つの大きな課題である。そのように捉えれば、取得することは一定程度の理解をしているつもりだが、なぜ市がそこを取得したのかという市長の考えや、都市計画あるいは駅周辺をこれからどうしていこうかという、そこに何を持ってきたらよいのか、前段はきちんと説明するべきだと考える。例えばにぎわいを創出するためなら、そのにぎわいを行政だけでつくれるとは決して思わない。そうすると周辺に民間がどれだけ投資するのか、その呼び水をどのように行政が用意するのかといったことが非常に重要になってくる。
- 市長 今後10年、20年、駅周辺をどうするのか。一つの施設にどのような機能を持たせるのかという議論はもちろん大事だが、もう少し大きな視点を持って計画あるいはビジョンを示された上で、この検討委員会で議論されていくほうが、より公共性の高い、あるいは駅周辺のにぎわいがどのようにできていくのかというところにしっかりつながる施設、機能がもたらされるように思う。検討委員会への投げかけ方についてはもう少し詳細であることを期待したいのだが、その点はどのように考えるか。
- 市長 今日の提案は議会で全議員の前で初めて述べた。まずもって市としての考え方、これまでの経緯を踏まえて先行取得したい。土地開発公社で取得したい。ついてはこのようなスケジュール感だという話をさせていただいた。承認いただいた後については、本年5月から検討委員

三浦議員

会を立ち上げるので、その際に執行部の考えを述べたい。

もちろん検討委員会に詳細な方向性は委ねるのだろうが、その場所にどういう機能を持たせたらよいのかという前段は、市長が描くビジョンに基づいて議論されるべきだと思う。そこはしっかりお示しいただきたい。

今回の購入価格が2億4千万と出ている。決して安くはない買い物だと思う。2億4千万を駅前に投資するということである。ここにどれだけの人の流れができるか。これは私の意見だが、今後民間投資がどれくらい呼び込めるか。もちろん学生も通るエリアである。商業もそうである。そういったこと全てにおいてどのようなよい影響が出るか、しっかり考えていかないといけない。そうしたときに、福屋1階にもこれからまちなか交流プラザをつくろうと検討してる。君市踏切の道路も変わってくるし、駅北も今後どうなるのか。あの周辺でいろいろ考えていかないといけない。スポットごとにいろいろなことがある。これを1個ずつ部分的に捉えていると、まちとしては投資が分散する。分散しないよう全体的な都市計画をどうしていくかは考えていかねばならない。もちろん考えていると思う。それをしっかり検討委員会に投げて、2億4千万円という市の先行投資の効果が本当に出るようにしっかり議論してほしい。

そのためにやはり前段で、市長が描かれるまちづくりビジョンを検討委員会に。方向性をつけていくという意味ではなく、どういう目的でここを市が先行取得したのか、どういう機能を持ってほしいのかということは、市長から検討委員会にしっかり理解を促していただき、検討がスタートすることを期待しておきたい。

市長

議員のご意見を十分尊重したい。今日は初めて皆の前でお話させていただいた。今の段階ではそこまでなかなか言えない。また検討委員会に委ねる以上は言うべきではない部分もある。しかしながら本件はご提案のとおりで、進めさせていただけるなら5月の検討委員会までに執行部の考え方も整理した上で検討してほしい。

柳楽議員

スケジュールに、令和5年9月から11月、市議会へ検討状況の中間報告、意見聴取とある。この意見聴取の中には市民からの意見聴取が含まれているのか。

産業経済部長
柳楽議員

来年度から市民アンケートなどで聴取したいと考えている。

意見聴取する手法なのだが、できるだけ地域に細かく出向いてもらいたい。皆が100%納得することはあり得ないだろうが、できるだけ納得してもらえ説明の場を設けてほしい。

笹田議長

ほかに。

(「なし」という声あり)

(4) その他

笹田議長

執行部からほかに報告事項があるか。

(「なし」という声あり)

議員から執行部に確認しておきたいことがあるか。

(「なし」という声あり)

執行部はここで退席して構わない。

《 執行部退席 》

2 その他

(1) 自由討議について

笹田議長

先ほど報告事項のうち、議会全体として問題点はどこにあるのか、どう対応していくのかということ十分に議論する必要があると考えられる案件があれば、議員間で自由討議を行いたい。必要だと思われる方は発言をお願いします。

足立議員

先ほどの三桜酒造跡地の件は、市長が目的をなかなか明確に回答されなかった。ただ、取得後にしっかり検討委員会に考えてもらうとのことだった。取得自体に問題はないとしても、その先が見通せない中では議論ができないと思う。皆はどう思うか。

岡本議員

この場で議論するようなものはないと私は思っている。今後検討委員会の中でしっかり検討してもらおう。そこから出たものについて我々は議論するべきで、今この時点で我々が議論する必要はないと思う。

大谷議員

私もこの時点ではないと思う。先ほどのスケジュールにもあったように、議会側に中間報告をすると出ているので、その時点でも幾らでもできると認識するので、この時点ではなくてよい。

芦谷議員

この案件については両方とも一般質問で出る。したがって自由討議よりもまず一般質問での議員の質問権を優先させて、それが終わった後なお必要であればやればよい。

笹田議長

ほかにないか。

(「なし」という声あり)

必要ないという方が多いので、今回は自由討議はしないこととした。ご異議ないか。

(「異議なし」という声あり)

(2) その他

笹田議長

議員から何かあるか。

(「なし」という声あり)

以上で全員協議会を終了する。

[12時 21分 閉議]

浜田市議会全員協議会規程第6条の規定により、ここに全員協議会記録を作成する。

浜田市議会議長 笹田 卓